

(様式 13)

氏名(本籍) 松本 大慶 (埼玉県)  
学位の種類 博士(歯学)  
学位記番号 甲 第833号  
学位授与日 2021年3月15日  
学位授与の要件 博士の学位論文提出者(学位規程第11条第1項該当者)  
学位論文題目 有床義歯装着高齢者の味覚機能

論文審査委員 (主査) 教授 大川 周治  
(副査) 教授 村本 和世  
(副査) 教授 藤澤 政紀  
(副査) 教授 大岡 貴史

### 論文内容の要旨

本研究の目的は、豊田らが開発した味覚機能スクリーニング検査法を応用し、有床義歯装着高齢者の味覚機能を明らかにすることである。被験者は明海大学歯学部附属明海大学病院歯科補綴科を受診し有床義歯による治療を希望した有床義歯装着高齢者(以下、義歯装着者)50名と、全身疾患を認めずかつ顎口腔系に異常を認めない健常有歯顎者28名、および過去に本分野の染川らが採取した健常有歯顎高齢者22名のデータとした。味覚機能検査には本分野の豊田らが開発した味覚機能スクリーニング検査法を用い、感じた味の強さに関しては visual analogue scale 法によりスコア化した(以下、味覚 VAS 値)。分析項目は、1) 義歯装着者の味覚機能低下に関する主観的評価と客観的評価の比較、2) 上下顎全部床義歯装着者における義歯装着の影響について、3) 義歯装着者と健常有歯顎者との比較、4) 義歯装着者における錯味覚の出現率、5) 義歯装着が錯味覚の有無に影響する要因について、6) 錯味覚の認められなかった義歯装着者の味覚 VAS 値に影響する要因について、7) 義歯装着者と健常有歯顎高齢者とのデータ比較、とした。

その結果、義歯装着者では義歯装着、非装着にかかわらず、客観的評価による錯味覚の出現率は、主観的評価による味覚機能低下の自覚と有意な関連は認められなかった。上下顎全部床義歯装着者では、義歯装着時と非装着時の間で4基本味すべてにおいて味覚 VAS 値に有意差は認められなかった。義歯装着者では義歯装着、非装着にかかわらず健常有歯顎者と比較して4基本味すべてにおいて味覚 VAS 値が有意に小さい値を示した。義歯装着者の錯味覚出現率は甘味で有意に小さい値を、塩味、酸味、苦味で有意に大きい値を示した。義歯装着者の錯味覚出現率は健常有歯顎高齢者と比較し、義歯装着、非装着にかかわらず苦味で有意に大きい値を示した。錯味覚の認められなかった義歯装着者の味覚 VAS 値は、義歯装着、非装着にかかわらず健常有歯顎高齢者と比較して、酸味で有意に小さい値を示した。

以上より、有床義歯の装着が味覚に及ぼす影響はない可能性が示された。さらに有床義歯装着高齢者では、味覚機能低下の自覚がない場合でも客観的には味覚機能が低下している可能性があり、食生活上、ひいては健康への影響を留意することの重要性が示された。

### 論文審査および試験結果の要旨

本論文は、有床義歯装着高齢者の味覚機能を検討したものである。その結果、有床義歯の装着が味覚に及ぼす影響はない可能性が示された。さらに有床義歯装着高齢者では、味覚機能低下の自覚がない場合でも客観的には味覚機能が低下している可能性があり、食生活上、ひいては健康への影響を留意することの重要性が示され、臨床上有意義な知見を提供しているものと判断できた。

明海大学大学院歯学研究科歯学専攻 松本大慶に対する最終試験は、2020年11月30日、主査 大川周治教授、副査 村本和世教授、藤澤政紀教授、大岡貴史教授の4名により、主論文の内容および専攻学術に関し、口頭試問をもって実施し、合格と認めた。また、松本大慶の語学試験は、大学院入学試験時の外国語試験の結果をもって合格とした。

よって、申請者：松本 大慶は、博士(歯学)の学位を授与されるに値するものと判断した。